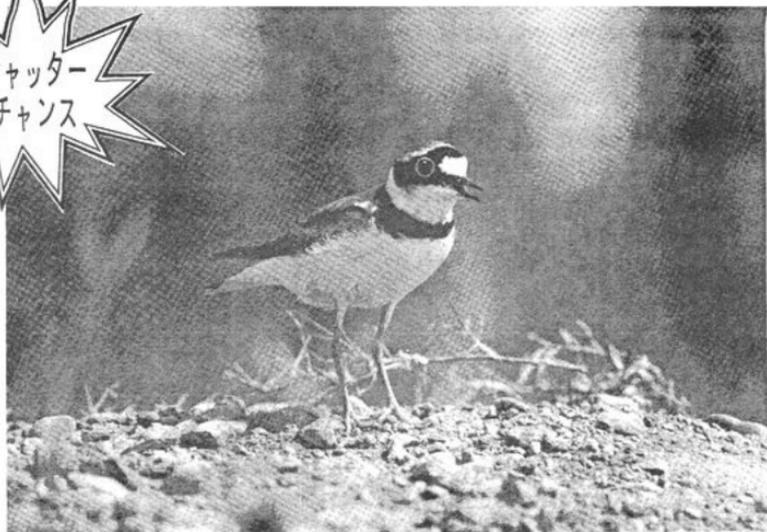


市川自然博物館

4・5月号

（通巻第11号）

だより

シャッター
チャンス

～コチドリ～

4月になると、市内でも多くの夏鳥や旅鳥の姿が見られるようになります。コチドリは、夏鳥として普通に渡来する小型のコチドリ類です。河口近くの砂礫の多い川原や埋立地、造成地などに縄張りをつくって営巣し、繁殖します。

江戸川放水路のかたわらにある造成地で、コチドリを観察するために身をひそめていると、縄張りを見張っていたコチドリが、近くへやって来ました。スズメほどの体に大きな目、そして目の周りにある金色の輪が特徴です。いくつかの決まった場所に移動しては、その大きな目で、じっとこちらの様子をうかがっていました。

特集 田んぼや池で 水の中の

田んぼや小川、わき水が注ぐ水たまりには、浅い水の中が大好きな生き物たちがくらしています。海や湖、大きな川の中とはちがった小さな小さな世界で、そこにすむ生き物は水族館ではあまり見られません。ちかごろは、身のまわりから生き物が住めそうな小川や田んぼが、どんどんなくなってしまって、そういう生き物を観察するのも、簡単ではありません。大町自然観察園でくらしている水のなかの生き物たちを、紹介しましょう。

●サワガニ

いつも、水際の倒木の下などに隠れています。めすは卵を腹に抱えて、子ガニになるまで大切に守ります。



☆この姿が見られるのは、夏。

●マシジミ

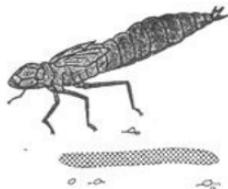
自然観察園では、流れの強い小川にいて、いつも砂にもぐっています。



☆振りおこすと、白い足を伸ばして、あわててもぐりはじめる。

●やご

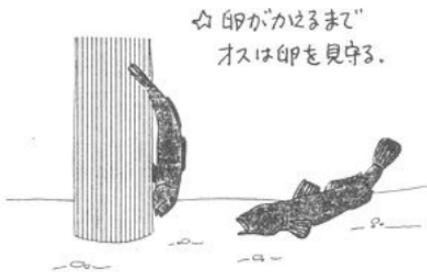
とんぼの幼虫はやごと呼ばれ、水の中でくらしています。種類によって、やごの姿は異なります。水の中で小魚やぼうふら、小さな生き物を捕らえて食べます。



☆おしりからのジェット水流で少しは泳げる。

●ヨシノボリ

淡水にすむハゼのなかまで、自然観察園のものは体長3～5センチほどです。腹びれが吸盤のようにはたらくので、水中のヨシの茎や杭、板などに自在にくっつくことができます。



☆印が"かはるまで"オスは印を見守る。

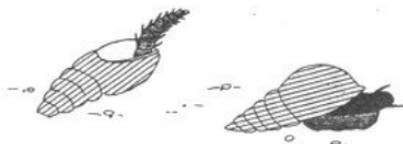
生き物観察



●カワニナとヘイケボタル

ヘイケボタルの幼虫は、新鮮なわき水がいつも流れている浅い小川が大好きです。そこには、カワニナという小さな巻き貝がいて、ヘイケボタルの幼虫のエサになっています。

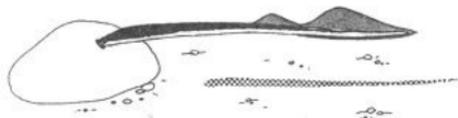
☆ホタルは幼虫の時でも光る!!



☆カワニナは観察園にたくさんいる。

●スナヤツメ

片側に目が8つあるように見えるので『スナヤツメ（砂八つ目）』といいますが、目は本当はそのうちの1つで、他はえら穴です。流れのある浅い小川にすみ、いつも砂にもぐっています。



☆これは成魚で、産卵すると死ぬ。幼魚はもっとのっぺりした姿で、最後の年に成魚に変態する。

●おたまじゃくし

自然観察園でよく見られるのは、ヒキガエル、アカガエル、ウシガエルのおたまじゃくしです。4月ごろ観察園の三角池を真っ黒におおいつくすのは、ヒキガエルののおたまじゃくしです。



☆1つの卵塊から、むちゃくちゃ生まれるが、ぶぶぶ成長できるのは、ごくごくわずか。

●アメリカザリガニ

硬い殻と大きくて強力なハサミを持ち、なんでも食べてしまうたくましい生き物です。そのザリガニを丸ごとバクバク食べてしまうのは、ウシガエルです。



☆エサを食べる時は、足がたくさんでてきて、千手観音みたい。

いま、自然博物館の情報コーナーでは『観察園の水の中のいきものたち』を飼育展示しています。



おじゃまします!

街かど自然探訪

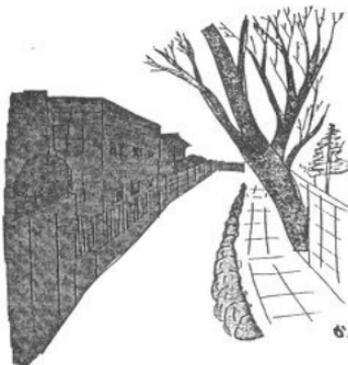
このコーナーでは、街かどの自然の風景をみなさんに紹介していきます。

第1回は、行徳街道ぞいの3つの町、相之川、新井、伊勢宿で見つけた風景です。

相之川

日枝神社のケヤキ

相之川の日枝神社に、大きなケヤキの木があります。南行徳小学校へ入る路地にかぶさるようにはえていて、少し窮屈そうです。ケヤキは、新緑と紅葉が美しい木です。▶



新井

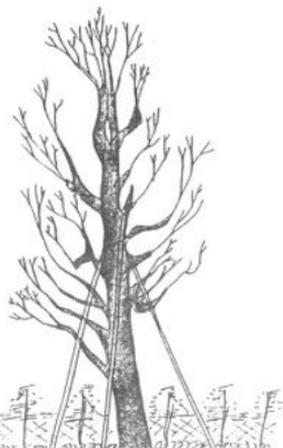
北浜公園のコブシ

純白の花で春の到来を告げるコブシは、市川の林で普通に見られます。北浜公園のコブシは、移植されたばかりのようで、たくさんの花をつけるまでには何年もかかるかもしれません。その時が、楽しみです。▼

伊勢宿

豊受神社のエノキ

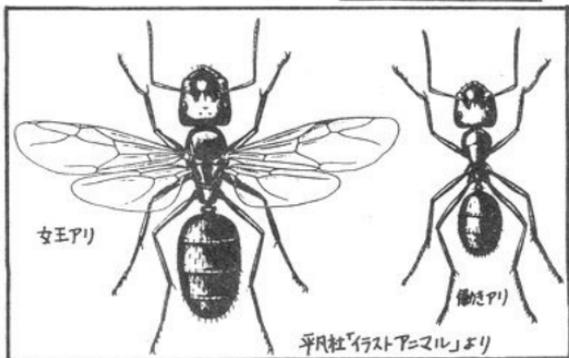
行徳には、神社や寺が多くあります。境内に多い木としては、スダジイ、タブノキ、クロマツ、イチヨウなどがあげられます。エノキは、秋に丸い小さな実をつける木で、その実は鳥の大好物です。▶



市川の こん虫 アリ



春、暖かくなると、冬の寒さを土のなかの巣でじっとたえていたアリたちが、地上にでて活動をはじめます。公園や道路、木の幹の上などを行進している姿をよくみかけるようになります。行進する先を追っていくと、たいていエサが見つかります。それを力をあわせて運んでいるところなのです。



とくに春先は、巣の中にたくわえておいたエサが冬の間にはほとんどなくなっているので、エサを見つけると、他の巣のアリたちに取りられないように素早く巣に戻ります。そして、いそいで仲間知らせ、仲間を引きつれてエサのある場所までもどり、エサを巣の中に運びます。市内には10数種のアリが分布しているといわれていますが、一番よく見られるのは、『クロオアリ』というアリです。

むかしの市川 ～その9～

真間川の思い出(1)

昭和8年頃、私の家は県道市川-松戸線の真間川にかかる橋の近くにありました。橋は根本橋といい、赤煉瓦をアーチ状に積んだ水門になっていました。真間川の水はこの水門をくぐって江戸川に合流するので、水門には、江戸川の水が増水したときに逆流を防ぐための門扉がっていました。

真間川の堤防はきわめて低い土手で、容易に水辺におり立つことができました。水辺には、マコモがおい繁り、川底にはクロモ、エビモ、セキショウモなどの沈



水植物がびっしりと生え、コウホネの水の中葉が流れにゆらめいていた姿が思い出されます。魚も多く、フナ、タナゴ、コイ、ナマズなどがよく釣れて、大きな楽しみでした。時には、腹の赤いグロテスクなイモリも釣れて、釣針をはずすのに気味が悪くて困ったこともありました。

(博物館指導員 大野景德 記)



観察園は、もう春のにおいていっぱいです。湿地ではセリやオランダガラシのあざやかな緑があちこちにこんもりとしています。ウグイスのさえぎりも、3月半ばから練習を重ねたかいあって、ずいぶん上達しました。

この春、観察園ではなつかしい生き物が2種類みつかりました。両方ともきれいなわき水が流れる水路が大好きな生き物です。1つは、スナヤツメというヤツメウナギの仲間です。ふだんは砂にもぐって生活しているためここ十数年生息が確認できませんでした。

もう1つはカワモズクという紅藻の一種で、早春のご

く限られた時期だけ水路で見ることが出来ます。これもここ十数年確認されていなかった生き物です。これからもこうした貴重な生き物たちが住める観察園の自然環境を、大切を守っていきたいものです。



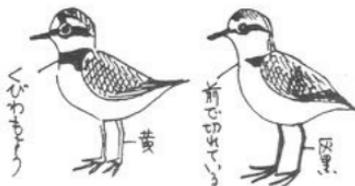
行徳野鳥観察舎 だより

春がやってきました



♪どこかではるが〜、と思わずハミングしたくなる。ニワトコの丸い芽がはちきれそう。柳が芽ぶき、ヨモギがのびて、桜のつぼみもめだってきた。びかびかの繁殖羽に着がえたカモたちはさかんに求愛ダンスを続けている。1羽か2羽のお嫁さん候補を囲んで、何羽ものダンディが頭をびよこびよこ上下したり、尾羽をきゅっと上げて花のようなポーズ。

南国からのお客たちの渡来が待たれる頃。かつては旅鳥のツルシギがトップで、春一番とほぼ同時に姿を見せたものだが、最近はその数が減ってあまり見られなくなってしまった。かわって先陣をつとめるのは夏鳥のコチドリ。3月10日2羽初認。黒い首輪模様が干潟の泥に映えて、ひときわ鮮やかに見えた。



コチドリ(夏鳥)

ヨチドリ(周年)

文と絵・蓮尾純子

いちかわの自然調査

自然博物館では、市川の自然のようすを知るために、身近な生き物の調査を行います。下記の調査項目について観察されたかたは、自然博物館までご連絡下さい。

< 調査項目 >

1 カントウタンポポの花

花のつけねで、セイヨウタンポポと区別してください（3～5月ごろ）。

2 ヒキガエルの卵

管状になっていて、庭の池などに産みつけられることもあります（3～4月ごろ）。

3 ウグイスのさえずり

『ホーホケキョ』という声です。初鳴き情報だけでなく、どんな時期の情報でもかまいません（3～8月ごろ）。

4 ヒバリのさえずり

畑や空き地の上空で、高い複雑な声でにぎやかにさえずります（3～5月ごろ）。



< 連絡方法 >

観察した項目・月日・場所（地番や略地図）を、適当な紙に記入の上、自然博物館まで郵送してください。（専用の調査票はありません。）

※調査にご協力くださった方には、調査結果がまとまりしだい、報告書を送らせていただきます。

● こんな情報をいただきました ●

○2月半ばごろから、庭で毎朝6時頃からウグイスがさえずり、お昼ごろまで遊んでいるようです。

市川市菅野 嶋田安子 様

○バス通りのすぐ脇の、和洋大学のかこいの盛り土の部分に、カントウタンポポが群生しています。

市川市大洲 渡辺晴美 様

○カントウタンポポの花とヒバリのさえずり：1991年3月20日、江戸川土手（市川市妙典）

市川市妙典 平松秀子 様

これは今までにいただいた情報のほんの1部です。皆様からのたくさんの情報をおまちしております。

自然博物館の行事あんない



「5月の自然観察会」

1. 日時 5月12日(日)
午前9:30～11:30
2. 場所 北国分周辺
3. 内容 雑木林の植物
4. 申込受付期間 4/29～5/7
5. 定員 先着20名

往復ハガキに参加者全員の住所氏名、年齢、電話番号を明記の上自然博物館までお送り下さい。なお、先着20名様にて締め切らせていただきますので、ご了承ください。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ お し ら せ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

『博物館だより』定期講読者大募集！！

自然博物館では、2か月に1回、この「市上市川自然博物館だより」を発行していますが、このたび、みなさまのご要望におこたえて、年間定期講読者を募集します。

- 応募方法 住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、送料分の切手（72円切手1枚と62円切手6枚）を同封の上、自然博物館まで封書でお申し込みください。
- 送付物 年間行事案内、博物館だより4月号～平成4年2月号（6部）、博物館だより臨時増刊号（7月発行・1部）各1部。
- 応募期間 平成3年4月1日～5月末日（消印有効）

※2部以上の送付をご希望の方は、博物館までお問い合わせください。



次号は6月1日発行

市上市川自然博物館だより
第3巻 2号（通巻第11号）
発行日／平成3年4月1日
編集・発行／市上市川自然博物館
〒272 千葉県市川市大町 284番地
☎ 0473 (39) 0477